2. 事業の目的と概要	
（1）事業概要	イラク共和国ニナワ県トブザワ村において、紛争で壊れて使用できなくなっている中学校を補修し、村の子どもたちが再び通えるようにする。またワークショップを通じて、教職員の主体性を促すことにより、校舎が安全かつ快適な状態を保てるようにする。また、夏休みの3か月間、新学期からの授業についていけるよう、補習校を開校し、運営する。エルビル県においては、実業高校２校にPC教室を整備し、1～2年生がカリキュラム通りに学び、基礎的なスキルを身につける。また、PC研修を教職員に実施し、授業や事務へのPCの活用を促進する。 By rehabilitating the Junior high school building damaged by the conflict in Tobzawa village, Ninawa Governorate, Republic of Iraq, the children at the village will have better access to education. The rehabilitated school buildings are properly maintained by the school teachers and staffs by their own initiatives. During summer holiday season, supplementary school is open at the school for 3 months to help the students around the area to catch up the regular class after opening the new school year in September, 2019. At the 2 vocational preparatory schools in Erbil governorate, the project makes sure that the 1st and the 2nd grade students can learn PC skill as curriculum through providing PC facilities (rooms and equipment) and the teachers can utilize the computer by providing lessons .
（2）事業の必要性（背景）	（ア）事業実施国における一般的な開発ニーズ イラクでは、2019 年 4 月末時点で約 160 万人[1]がニナワ県に帰還しているが、帰還先であるコミュニティの公共サービスの復旧が遅れており、特に教育現場では破壊や損傷を受けて使えなくなっている学校が多く、教室の過密や地域に学校がない等の理由で、多くの子どもが学力不足や不就学となっている。 一方、クルド自治区は、若くて成長過程にある 20 歳未満の人口が約 50%を占めている。今後 20 年間で 85 万人から 110 万人[2]の若者が労働市場に参加すると推定されており、年間にすると約 4 万～5 万人の就職口が必要になる。一方で、失業率は 17%を超えており、失業者が増えることによる経済への影響、国の不安定化が懸念されている。 そんな中で、クルド政府は 2020 年までに男女ともに民間企業への雇用を促進することを目標とし、その焦点の一つとして IT スキルの習得などが挙げられており、教育現場における卒業後の就職を見据えた実践的な学習、知識の提供が求められているが、実業高校においても実践的な授業には程遠く、企業の要請に応えられていないため、改善が必要とされている。 （イ）なぜ申請事業の内容（事業地・事業内容）になったのか ・ニナワ県モスル郡バッシーカ地区トブザワ村について トブザワ村は、エルビルから西約 75km の位置で、モスル市の手前に

[1] http://iraqdtm.iom.int/BaselineDashboard.aspx

[2] http://www.iraq-jccme.jp/pdf/archives/krg_2020_english.pdf　P.9

	位置している。 2014 年に過激派組織 ISIL と治安部隊、融資連合軍の戦闘に村が巻き込まれた。2017 年 8 月に ISIL から奪還され、2019 年 10 月末現在 5,712 人が帰還している。 家屋の破壊は少なかったが、電気設備、水道設備、学校などの公共施設が破壊されていた。 対象校となるトプザワ中学校の校舎は、紛争前に新規開校予定で工事が進められていた。事務室棟（職員室 5 室）、教室棟（教室 8 室）、理科室棟（教室 4 室、理科室 5 室）に分かれており、窓と電気工事を終えれば完成というところまできていた。しかし、2014 年に過激派組織 ISIL が村を占拠し、イラク軍による掃討作戦に巻き込まれた結果、電気工事が中断しただけでなく、校舎は空爆によって大きな損害を受けた。ISIL から奪還後、2019 年に村内の寄付により教室棟と事務室棟の一部が補修されたが、残りは未補修のままとなっている。空爆で壊れた校舎のガレキがそのまま放置されており、壁には大きな亀裂が入り、今にも崩れそうな箇所もあるため補修が急がれている。ニナワ県でもイラク政府による公共サービスの復旧が急がれているものの、モスル市中心部の支援が優先されており、トプザワ村のような周辺地域まで支援が回るには相当の時間がかかる。 地区長からの聞き取りによると、村内には中学校に通っている生徒が男女合計で 390 人おり、トプザワ中学校には 140 人の男子生徒が通っている。残り 250 人は村から 4～5 キロ離れた他の村に徒歩やバスで通っている。通学路の安全性の不安から通学していない女子生徒が 20 人程度いるとのことである。 なお、同村には男子校、女子校の 2 シフト制の小学校が 1 校舎あり、2019 年度時点で男子児童 695 人、女子児童 690 人、計 1,385 人が在籍している。 同校の補修は、他の村へ通っている生徒及び未就学生徒、小学校から進学してくる児童が、村内の中学校へ通えるよう、イラク教育省ニナワ教育局（以下ニナワ教育局）からも支援要請を受けている。 以上のことから、本事業ではトプザワ中学校校舎の補修を行う。 <u>・ICT（情報通信技術）教育にかかる動向</u> エルビル県内にある実業高校 9 校のうち、4 校については 2018 年に日本政府資金（国際機関経由）による援助により、国際連合工業開発機関（UNIDO）による事業で PC が設置されたが、残る 5 校については PC がない、もしくは数台ある PC も老朽化して使用できない状態であった。クルド教育省のカリキュラムでは、高校 1-2 年度に PC 教育を週 3 回実施することになっているが、PC が無い学校では座学で理論を学ぶのみで、実際に PC に触ってスキルを身につけ、社会生活ですぐに役立つような授業が行われていない。 また、弊団体が N 連の助成を得てエルビル県にて実施している PC 供与、教職員に対する PC 研修事業において、対象校であるエイロル実業高校の教職員 39 人にアンケートを行ったところ、49%の教職員が PC に触れたことがない、51%が起動のみできる、と回答しており、授業に PC が導入されていないだけでなく、手書きでの文書作成、成績

	管理などに時間を割かれている。 そこで、2020 年は、2019 年支援のエイロル実業校を除く残る 4 校のうち、PC 教室が整備されていない実業高校 2 校に対し、PC 教室の整備を行い、生徒が整備された教室で生徒がカリキュラム通りに学べるようにする。また、PC 研修を教職員に実施し、授業や事務へのPCの活用を促進する。
	●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性 本事業は「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標4.「すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。」に該当する。 また、4.1「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」ためには、補修工事で安全な校舎、学習環境を確保すること、および実業学校においては PC 教育環境が整備されることが重要である。
	●外務省の国別開発協力方針との関連性 本事業は教育分野における学校施設補修を行うものである。これらは対イラク共和国 国別開発協力方針の重点分野（3）生活基盤の整備の「地域レベルでの上下水道・電力・保健医療・教育等の公共サービスの向上といった市民生活に直結する分野で，施設整備と人材育成を行う。」方針に合致する。
	●「TICADⅦにおける我が国取組」との関連性 本事業はアフリカ地域では実施しない。
（3）上位目標	イラク共和国ニナワ県において、安全で適切な教育環境を整備する。エルビル県の実業高校においてPCの実践的な授業を行う環境が整備され、生徒の就職率の向上に寄与する。
（4）プロジェクト目標 （今期事業達成目標）	・トプザワ中学校校舎が補修され、村の子どもたちが通えるようになる。また、教員により維持管理体制が構築され、安全で快適な環境が維持される。 ・補修が完了した校舎を活用して補習校を開校し、子どもたちが公立校の授業についていくための学力を身につける。また、未就学の子どもたちに教育の機会を提供する。 ・エルビル県の実業高校 2 校において、整備された PC 教室を活用し、1～2年生に PC 授業がカリキュラム通りに行われ、生徒が PC の基礎的な操作スキルを身につける。また、PC 研修を教職員に実施し、授業や事務でPCの活用が促進される。
（5）活動内容	【コンポーネント①　学校補修】 ニナワ県モスル郡トプザワ村にある紛争被害を受け損壊が激しいトプザワ中学校校舎を補修する。 1-1. ニナワ教育局・施工業者との調整 ニナワ教育局に本コンポーネントについて説明し、承認を得る。事前に弊団体エンジニア、教育局エンジニアが現場調査し、決定した補修箇所の BOQ に基づいて 3 者見積もりを取得する。施工業者選定には価格の適正と該当箇所を予定期間内に完了できる能力があるかを考慮の上決定する。

	施工開始前にニナワ教育局、施工業者、弊団体で補修箇所とスケジュールの確認を行う。 1-2 学校補修のための施工 工事期間中は、弊団体スタッフ及びエンジニアが随時現場を視察し、BOQ 通りに工事が行われているか確認し、弊団体へ報告する。工事を進める中で材料や仕様に変更が生じる場合には、速やかに弊団体エンジニアが弊団体スタッフ及びニナワ教育局エンジニアへ報告し、変更の必要性を確認の上、変更の手続きを進める。 トブザワ中学校 2019 年 10 月時点で、140 人の男子生徒が通っている。 校舎は空爆により建物の一部が損壊、それ以外の箇所も外側はコンクリートがひび割れた状態のままとなっている。校舎内は窓ガラスが割れている箇所が多数ある他、トイレや洗面台も破損している。 ・校舎概要 在籍可能人数：500 人、教員数：22 人 【事務室棟】 ・職員室 5、職員トイレ 2 【教室棟】 ・教室 8、生徒用トイレ 12 【理科室棟】 ・教室 4、理科室 5 校舎の構造：鉄筋コンクリート 2 階建て（コの字型） トイレ個室の数：14（生徒用 12、職員用 2） 補修箇所： ・建築構造物関連 ① 校舎の壁面補修 200 ㎡ ② 学校フェンスの補修 1.8m 高×50m 長 ③ 校舎内部の壁面修理 400 ㎡ ④ 校舎外側手すりの補修 0.9m 高×30m 長 ⑤ 中庭部分地面のコンクリート貼り 150 ㎡ ⑥ 金属製ドア設置（教室・事務室部分＝15 箇所、玄関＝2 箇所、理科室棟＝4 箇所） ⑦ トイレのプラスチックドアの設置 10 箇所 ⑧ プラスチック製の窓の設置 全 43 箇所 ⑨ ガラス窓の設置 40 箇所 ⑩ 階段の補修、設置 1 箇所 等 ・水・衛生関連工事 ① トイレの手洗い所の整備 12 箇所 ② トイレ便器の設置 8 箇所 ③ 貯水タンクの設置等 10 基 等 ・電気系統関連

	①　屋内照明設備の設置　100 箇所 ②　スイッチ付きコンセントの交換・設置 40 箇所 ③　天井扇の設置　15 箇所　等 1-3 完成の確認 完成の確認は、施工業者、ニナワ教育局エンジニア、弊団体エンジニアで行い、ニナワ教育局が第 3 者評価を行う。その後、ニナワ教育局と工事完了と維持管理に関する覚書（MoU）を交わす。 1-4 ニナワ教育局・学校長との調整 補修工事を終えたトプザワ中学校がスムーズに開校できるよう、適宜フォローを行う。ニナワ教育局及びトプザワ中学校の校長に校舎維持管理体制の構築について事業目的、内容について説明し、事業実施の承諾を取り付ける。 1-5 校舎維持管理ワークショップの実施 対象：トプザワ中学校校長・教頭・教員、およびニナワ教育局のスーパーバイザー 内容： ① 学校の維持管理について、これまでの経験に基づき、課題や問題点を話し合い、ワークシートに書き出してもらう。（グループワーク） ② グループごとに発表 ③ 学校をきれいに保つための「アクションプラン」を作成する。 ④ グループごとに発表 1-6 モニタリング＆コンサルテーションの実施 ワークショップ後 1 ヶ月をめどに、学校維持管理運営に関するアクションプラン実施状況について弊団体スタッフとニナワ教育局スーパーバイザーにて聞き取りを実施する。 モニタリング及びコンサルテーションは、ワークショップ後に実施する。 【コンポーネント②補習校の開校と運営】 地区長の話によると、村内には中学校に通っている生徒が 390 人おり、うち 140 人はトプザワ中学校に通っている。残り 250 人は村から 4～5 キロ離れた他の村に徒歩やバスで通っているが、通学路の安全性の不安から休みがちになっている生徒もおり、勉強についていけずに不登校気味になっているとのことである。また、通学を中止している女子生徒も 20 人程度いると聞いている。未就学女子生徒や他の村に通っていた生徒が編入できても、勉強についていくことができずに留年や退学してしまう可能性がある。 また、2020 年度秋からトプザワ中学校が補修されたことをより多くの保護者や生徒に知らせるために、補修が完了したトプザワ中学校を活用し、夏休み期間の3ヶ月間、補習校を開校し、中学生が夏休み期間中に基礎的な学習内容の復習を行い、学校から遠ざかっていた子らが必要な学力を取り戻し、公立校へスムーズに移行できるようにする。 2-1 ニナワ教育局との調整

	ニナワ教育局に補習校開校、運営に関する趣旨を説明し、正式に開校の承認を得る。また、補習校に通った生徒がトブザワ中学校（公立校）へスムーズに移行できるよう、登録に関する手続きなどの保護者への説明会に教育局から講師を派遣してもらえるよう要請する。 2-2 生徒・教員の募集 地区長に協力を仰ぎ、地区内の全域に広告を掲示し生徒・教員の募集を行う。また、他の村の中学校へ通っている子どももいるため、ニナワ教育局へ協力を仰ぎ、周辺の学校にも広報の協力を依頼する。 補習校の定員は、中学３学年×30 人/1クラス×2 シフト（男女別）=180 人を想定している。もしこれを超える希望者が来た場合は、未就学の生徒、就学児の中でも留年した生徒、避難民生徒、帰還民生徒などの優先順位をつけて対象者を選抜する。 生徒が増えた場合は、過密状態にならないように、残りの 9 教室を使い、教員数を増やし、クラスを増やすなどして対応する。 2-3 教員採用 校長1人、教員 10 人、清掃員1人を採用する。質の高い教育を提供するため、教員免許、教員経験のある教師を採用し、教科はアラビア語・英語・算数・理科・社会を想定する。 2-4 生徒登録 生徒の登録は弊団体スタッフ及び採用した教員で行い、以下について確認する。 ・年齢 ・最終学歴（学校へ通ったことがあるか、どこの学校か、最後に修了した学年、通っていなかった場合の理由など） ・ISIL 占領下時にどこへ逃れていたか、学校へ通っていたか ・現在の学力の確認 ・学習困難な生徒の場合の実態把握（学習障害・ADHD・ASD 等） ・公立校への入学の意思・意欲 ・生徒の衛生環境、生活習慣に対する質問 補習校の学年については、生徒の最終学歴などを参考にしながら、保護者とも相談の上確定する。 2-5 第 1 回保護者説明会の開催 イラク共和国の方針として、保護者の教育に関する介入が求められていることから、弊団体スタッフ及び教員が中心となり、保護者会を実施し、補習校の目的、内容などについて説明し、帰宅後の学習のフォローなどについて協力を仰ぐ。 2-6 補習校開校 開校期間は 6 月-8 月を想定している。男女別 2 シフトで午前・午後に分けて行う。教科はアラビア語・英語・算数・理科・社会の授業を行う。 また、補習校の教員は月に 2～3 回の頻度で職員会議を実施し、子どもたちの様子やクラス運営での課題などについて共有しあい、改善に

努める。

2-7 開校時テスト
登録した生徒が、3ヶ月間補習校に通うことで学力が身についたかどうか、事後テストの結果と比較確認するために、事前の学力テストを補習校開校時に行う。

2-8 終了時テスト
補習校終了 1 週間前までに 2 回目のテストを実施し、データを分析し学力が上がったか平均点の上昇率で確認する。

2-9 第 2 回保護者説明会の開催
補習校終了 1 週間前に保護者説明会を実施し、補習校での学習の成果（開校時と終了時のテスト結果の比較）や生徒の成長ぶり、補習校での様子をスライド等で報告する。また、前年度まで他の村の中学校に通っていた生徒の保護者を主な対象として、トプザワ中学校の入学、編入手続きについても案内し、必要に応じて弊団体が保護者をフォローする。

【コンポーネント③ エルビル県実業学校の PC 教育環境整備】
エルビル県において、実業高校 2 校に対して PC 教室の補修工事及び PC 等を供与する。
PC 教室の補修を実施する学校の選定については、学校、学科としての PC の必要性（2 校はいずれも商業高校で卒業後 PC を活用した仕事に従事する可能性が高いと判断）、学校の PC 保有台数が少ない、教職員の意識（教職員が PC を活用した業務や教育に対して意欲が高いか）、学校の管理体制などの判断基準から、2 校を絞り込んだ。
PC 教室の補修後には、整備された PC 教室で 1～2 年生に PC 授業がカリキュラム通りに PC 教員により行われ、PC を使って基本的な操作スキルを身につけられるようにする。また、PC 研修を教職員に実施し、授業や事務へのPCの活用を促進する。

3-1 エルビル教育局・学校長との調整
・エルビル教育局、学校長に対し、学校設備の補修、PC 教室の整備及び PC 研修の事業目的、内容を説明し、承認を得る。また、2020 年度の 2 校への PC 教員の配置を要請し、承諾を得る。

3-2 施工業者/PC 納入業者との調整
・PC 教室の補修業者、PC 納入業者のそれぞれについて 3 者見積もりを取る。施工業者や PC 納入業者選定においては、価格の適正を考慮の上決定する。

3-3 PC 教室補修のための施工
・工事期間中は、弊団体スタッフ及びエンジニアが随時現場を視察し、BOQ 通りに工事が行われているか確認し、弊団体へ報告する。工事を進める中で材料や仕様に変更が生じる場合には、速やかに弊団体エンジニアが弊団体スタッフ及びエルビル教育局エンジニアへ報告し、

	変更の必要性を確認の上、変更の手続きを進める。 （1）エルビル商業高校（男子校） 生徒数：220 人（うち 1～2 年の生徒数：172 人） 教職員数：23 人（うち PC 研修の対象教職員数：18 人） 学科：商業科、使える状態の PC 無し。PC 授業は週に 3 回実施されているが、教科書を読む理論のみで終わっており、実践が伴っていない。 （2）夜間部職業訓練校（男子校） 生徒数：172 人（うち1～2 年の生徒数：132 人） 教職員数：30 人（うち PC 研修の対象教職員数：12 人） 学科：商業科の夜間学校。（別の学校名で午前中はクルドの普通科、午後は避難民向けのアラビア語教育による普通科小中学校が開かれている）。 PC 教室は商業科高校専用。国連よりラップトップ 2 台の供与を受けているが、この 2 台だけでは PC の授業が成立しない。週 3 回 PC の授業が行われている。 3-4 PC、机椅子等の設置 エルビル商業高校、夜間部職業訓練校の 2 校に対し、PC 及び机、椅子を供与する。（供与数は各校に 21 台＝生徒用 20 台＋教員用 1 台） PC の供与に際してはエルビル教育局に PC 供与数・型番を記載したレターを発行し、供与後はエルビル教育局と 2 校で責任を持って管理をするよう要請する。 3-5 PC 教室補修、工事完了の確認 補修工事完了の確認は、施工業者、エルビル教育局エンジニア、弊団体エンジニアで行い、エルビル教育局が第 3 者評価を行う。その後、エルビル教育局と工事完了と維持管理に関する覚書（MoU）を交わす。 3-6 教員へのアンケート実施 PC 研修のプログラム作成の参考資料にするため、PC 研修実施校 2 校の教員に対してアンケートを実施、集計後分析する。アンケート集計結果を外部講師と共有し、教員の PC スキルに合わせた研修プログラムを作成する。 ①年齢 ②教員歴 ③担当科目 ④PC 利用のレベル ⑤必要とされている PC スキル 3-7 教職員対象 PC 研修の実施 夏休み及び冬休み期間を利用し、各校で PC 研修を実施する。

	参加教職員の PC スキルに開きがあること、初心者が多いことが予測されるため、研修は外部講師に依頼し、サポートしてもらうこととする。また研修を 3 回に分けて実施することで、参加教職員が段階を踏んで PC スキルを身につけ、活用できるようにする。 対象者：教職員 受講期間：1 グループ（12～18 人）1 日 4 時間×7 日間コース×3 回（1 回目：6～7 月、2 回目：8～9 月、3 回目：1 月～2 月） 研修内容：（1～3 回目） 1）開始段階での実力の確認（講師による評価） 2）導入（PC のハードウエア、ソフトウエアの概念説明など） 3）PC 起動、ウィンドウズ起動/終了、ファイルシステムの理解など 4）タイピングの練習 5）Word の基本1＝起動、文字入力、保存 6）Excel の基本1＝起動、数字・文字入力、保存 7）Word の基本2＝文書、レター作成 8）Excel の基本2＝簡単な表計算 9）Power Point の基本1＝起動、文字、写真入力、保存 10）Power Point の基本1＝グラフ入力、アニメーションの活用、スライド作成 11）インターネットの基本とブラウザーを利用しての情報検索 ＊全体の復習と修了時の理解度確認（毎回の研修後に実施） 3-8　PC 教室維持管理ワークショップの実施 管理責任者に供与された機器への管理意識を促し、永続的に生徒が PC 教室で授業を受けられるようにする。 対象：PC 教室を設置した 2 校の校長・教頭・PC 教員 内容： ①PC 教室の維持管理について、これまでの経験に基づき、課題や問題点を話し合い、ワークシートに書き出してもらう。（グループワーク） ② PC 教室をきれいに保つための「アクションプラン」を作成する。 3-9　PC 授業のモニタリング（週1回程度） PC 設備の供与と PC 研修の終了後、学期中の授業運用方法をモニタリングするため、実際の授業を弊団体スタッフが観察する。あらかじめ 1 週間の PC 教室使用状況、出席状況、授業内容を記録するフォーマットを PC 教員に渡し、このモニタリングの際に提出してもらう。 3-10　PC 教室維持管理状況のモニタリング（月 1 回） PC 教員、校長、教頭に対し、アクションプランの実施状況について弊団体スタッフがモニタリングする。もし課題があれば関係者で話し合いの場を設ける。 3-11　教職員へのフォローアップ（週 1 回程度） 教職員研修終了後、時間を決めて、弊団体スタッフが PC 教室で待機し、教職員の希望者に指導する機会を設ける。

	裨益人口 ・直接裨益人口： コンポ① トプザワ中学校に通う生徒 320 人 コンポ② IVY 補習校に通う生徒 160 人 コンポ③ (1)エルビル商業高校 生徒 172 人(1～2 年生)、教職員 18 人 (2)夜間部職業訓練校 生徒 132 人(1～2 年生)、教職員 12 人 計 334 人 ・間接裨益人口： コンポ① トプザワ中学校以外に通う村の生徒 90 人 コンポ② IVY 補習校に通う生徒の家族 640 人 コンポ③ (1)エルビル商業高校 生徒 48 人(3 年生)、教職員 5 人 (2)夜間部職業訓練校 生徒 40 人(3 年生)、教職員 18 人 計 111 人
(6)期待される成果と成果を測る指標	コンポーネント① トプザワ中学校校舎が補修され、村の子どもたちが村内の中学校に通えるようになる。また、教員により維持管理体制が構築され、安全で快適な環境が維持される。 指標： ・トプザワ村の子どもたち 320 人以上が補修されたトプザワ中学校に通う。 ・BOQ に基づき補修工事が完成しているか、弊団体エンジニアで評価確認を行い、5 段階評価で 5 の評価を得た上で、ニナワ教育局による承認を得る。 (5 段階評価で 5 を獲得することで、補修工事の施工が BOQ 通りに実施され、生徒が安全に学べる環境が整備されたと言える。) ・ワークショップを受けた教員が校舎設備の維持管理に関するアクションプランを作成し、弊団体スタッフがモニタリングすることよりアクションプランの実行率が 70%以上となる。 (学校間で学校長の資質によりどうしても達成率に差が出てしまうため、全校で 100%になるということは困難である。過去3年間でこれまで全く維持管理がされていなかった学校でも 55%は達成され、平均 70%以上の実績となっているので、目標値を 70%以上とした。) コンポーネント② 成果： 補修が完了した校舎を活用して補習校を開校し、子どもたちが中学校の授業についていくための学力を身につける。また、未就学の子どもたちに教育の機会を提供する。 指標： ・トプザワ村の中学校就学年齢の子どもたち 160 人以上が補習校に通う。 ・開校時と閉校時に行う比較テストで、平均点が開校時を上回る。 (テスト結果で開校時の平均点を上回ることで、子どもたちが学力を身につけたと判断する)

	コンポーネント③ 成果：エルビル県の実業高校２校において、整備されたPC教室を活用し、1～2年生にPC授業がカリキュラム通りに行われ、生徒がPCの基礎的な操作スキルを身につける。また、PC研修を教職員に実施し、授業や事務でPCの活用が促進される。 指標： ・PC教室の補修工事がBOQに沿っていることを、エルビル教育局エンジニアと弊団体エンジニアで確認し、5段階評価で5の評価を得る。 （5段階評価で5を獲得することで、補修工事の施工がBOQ通りに実施され、PC環境が整備されたと言える） ・整備されたPC教室で1～2年生の全クラスにPC授業がカリキュラム通りに週3回ずつ行われる。 （PC教室でPC授業がカリキュラム通りに行われることにより、授業の質が従来の本器を使わなかった時に比べ、質が向上したと判断する。1週間のPC教室使用状況、出席状況、授業内容を記録するフォーマットを弊団体で準備してPC教員に渡し、報告してもらう。） ・PC研修を受講した教職員全員が、授業や事務にPCを使い始める。 （現在、PCの授業や事務へのPC利用率は0%であるが、研修をきっかけにPCを使い始めれば活用が促進され、業務の効率化が進んだと言える。） ・弊団体スタッフがPC教室の維持管理についてPC教員、校長、教頭にモニタリングを行い、アクションプランの実行率が70%以上となる。 （学校間で学校長の資質によりどうしても達成率に差が出てしまうため、全校で100%になるということは困難である。過去3年間でこれまで全く維持管理がされていなかった学校でも55%は達成され、平均70%以上の実績となっているので、目標値を70%以上とした。）
（7）持続発展性	・補修された学校が教育局に引き渡され，教育局が責任を持って運営していく。 ・校舎自体の維持管理は，アクションプランの継続的な履行によって，学校が責任を持って実施していく。 ・補修された学校が適切に維持管理され，子どもたちが継続して学校に通っている。 ・PC教室に関しても，アクションプランの継続的な履行によって，学校が責任を持って維持管理していく。 ・生徒へのPC授業は，PC教員を中心にカリキュラム通りに継続して実施するとともに，PC教員はPC操作に関して他教職員からの相談に乗る。 ・実践的なPC授業が継続され，卒業生の就職率向上に寄与する。

（ページ番号標記の上，ここでページを区切ってください）